

第1回 北海道立文学館運営評価委員会 会議録

開催日時 令和2年10月1日(木) 14:00

開催場所 北海道立文学館講堂

1 次第

1 挨拶

2 展示案内(常設展アーカイブ・特別展「北の話」)

3 会議

(1) 事業概要

ア 令和元年度事業実績

イ 令和2年度事業計画

(2) 新型コロナウイルス感染予防対策

(3) その他

2 出席委員(敬称略 50音順)

氏名	区分及び所属等
大鐘 秀峰	【学識経験者】 札幌国際大学教授
上野 靖	【社会教育関係者】 (公財)北海道生涯学習協会専務理事
辰巳奈優美	【利用者】 (公財)北海道文学館賛助会員(俳人協会北海道支部理事)
山田 岳志	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会事務局長)

※欠席委員

渡部 浩士	【学校教育関係者】 札幌市新川西中学校長(北海道学校図書館協会会長)
-------	---------------------------------------

3 委員からの意見等

- ・講堂のカーテンは開閉ができるようになったが、窓は開放できるのでしょうか
→前回ご意見があったカーテンの開閉を可能としましたが、講堂には開閉できる窓がついていないので、開放はできない
- 換気の観点から申し上げますと、講堂の空調は、常時外気を取り入れており、入口のドアを開放して使用することにより感染予防をしているところ
- 地下1階のサンクンガーデンへの出口、1階の入口についても、定期的(11:30, 13:30, 15:30)にドアを開放し換気を行っているところ
- ・来館者のアルコール消毒をされているが、閲覧室の本を講読した後は、エレベーターの昇降口に手洗いの消毒液が設置されているが、本の消毒はできない状況となっている。

どのように対応しているのでしょうか

→閲覧後は、本棚に本を戻さないで、職員に直接戻していただき、その本は職員が消毒した後、本棚に戻す対応をしているところ

→閲覧者には、閲覧する際とお帰りになる際には手の消毒をお願いするなど、気を使って対応しているところ

→せなけいこ展におけるグッズ販売では、かなり密な状況となることが予想されたので、そうならないようなグッズの配置を考えたり、レジにビニールのシールドを設置しましたし、講演会等におけるシールドの使用や人数制限等により感染防止対策を行っているところ

• 閲覧室の共同研究室は利用可能なのでしょうか

→換気の観点から、外気を取り入れる環境となっていないこと、また、利用内容を考えてドアを開放して使用できるものでないことから、利用は難しいと考えているところ

• コロナの影響では、館の当事者だけでなく、利用者もどこにも行けなくて家に居るほかないという、閉塞状況になってしまいました。先ほど開館時のしっかりとした対策について説明がありましたが、閉館時、ここに来なくても文学館の情報を得ることができるオンデマンド的な取組（他の施設と連携をしながらでもいいのですが）ができないものかと思います。感染が拡大し、休館ですではなく、これを乗り越える何かがないかと思います。

→文学館のホームページの中に、リモート・ミュージアムを開設し、展示作品の全てを紹介するまでには行かないのですが、「せなけいこ展」、「アイヌ絵巻と文学」などを画像で一部紹介しているところ

→ホームページから繋がるフェイスブックの中でもスポット的な紹介をしているところ

• 子ども向けの展示という話がありましたが、ファミリー文学館の観覧者約 2,200 名は、全員が免除か招待だったのでしょうか

→ファミリー文学館は、毎年、無料で開催しているところ

• 来場者が前年度と比べ増加しているのは、大変素晴らしいことだと思います。

利用者満足度調査を見ると、初めて文学館を利用した人の比率が 40.42%から 35.5%と減少しているのに、来館者数が増えたのはリピーターが増えているものと推測できますし、今後利用したいと考えている人も増えているのは、展示事業等の工夫の効果が現れているものと思います。

• 利用者満足度調査を見ると、広報に関し、もっと PR が必要との意見がありましたが、先ほど話のあった「リモート・ミュージアム」等の取組を進めることにより、実際に行ってみようと思う方がいると思いますので、今後も取組を継続していただきたいと思えます